

第425回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

1 開催日時 2026年2月16日(月)

2 開催場所 テレビ新潟本社

3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文 委員長 本宮 宏美 委員

小山 厚子 委員 杉原 名穂子 委員

書面での出席

石井 宏明 委員 大久保 千春 委員

迫 一成 委員 浜田 泰宏 委員

会社側出席者

代表取締役社長 正力 源一郎

取締役コンテンツ本部長 河野 修三

コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長 小林 健

報道制作局長 中川 幹子

報道制作局次長 須山 司

番組ディレクター 斎藤 久美子

事務局 鈴木 英門 坂上 寿史

4 議 題

1) 番組合評

「ドキュメント新潟 コメクライシス’ 25秋

米価高騰…バブルの果てに」

放送日時：12月28日（日）17：00～17：30

2) 会社報告

- ① 1月の視聴者の意見 （報告：番組審議会事務局）
- ② 講じた措置、議事概要の公表 （報告：番組審議会事務局）
- ③ 訂正放送、取り消し放送の有無 （報告：番組審議会事務局）

3) その他

5 審議の概要

会社側からは「この番組は、令和の米騒動をテーマにした“ドキュメント新潟 コメクライシス”の第2弾で、前回は生産者に焦点を当てた番組でしたが、今回は混乱したマーケットに注目し番組制作を進めました。関係各所へ可能な限り話を伺うことで、混沌とした令和の米騒動の現実を伝えることが出来たのではと思います」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 令和の米騒動で、改めて浮き彫りになった米流通の複雑さと価格高騰のメカニズムを丁寧に解説し、わかりやすく伝えていた。
- 米価高騰という現象を一過性のニュースとして扱うのではなく、生産現場の実感を起点に番組が構成されていたことで「私たちの主食の未来」という中長期的な問いへと視点が広がっていったように感じた。
- 難しく感じられる内容については、もう少し図解やチャートがあった方がわかりやすかったかもしれない。
- 生産者・卸売業者・JAなど、様々な立場からの声を伝えることで、それぞれの事情がわかりやすく伝えられていた。
- 30分番組とあって、何に重きを置くのか難しかったと思うが、米バブルの経緯・背景に多くの時間を割いたのはよかったと感じた。
- 輸入米が急増している現実には驚いた。国産米との比較や試食は、輸入米の現状を伝える上でとても良かった。
- 米の流通や生産の在り方に、鋭く切り込む識者やシンクタンクの見解があってもよかったのではとも感じた。
- 米価高騰や農家の高齢化等の問題点について、ただ不安を煽るわけではなく、現状を紹介・分析して伝えているところがよかった。
- 今後注目すべきポイントが伝えられていれば、視聴者がこれから注視すべき点がわかりやすくなったのではと感じた。
- 高齢化や跡継ぎ問題について、新潟の新しい農業の可能性について考えるような続編を期待したい。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月……132件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2026年1月19日)から、昨日(2026年2月15日)まで総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第424回審議会では、

2) 「ガタオシ!!新潟いかがでSHOW!」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ、社内に周知しました。

3) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

8 今回の第424回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に議事概要の書面を準備します。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・第424回番組審議会議事録
- ・1月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・BPO報告(No. 285)

以上